

長野県のシダ植物雑記(4)

大塚 孝一

K. Otsuka; Miscellaneous notes on Pteridophytes in Nagano Prefecture (4)

16. ツクシヤワラシダ *Thelypteris hattorii*

var. *nemoralis* (Ching) Kurata

本種はヨコグラヒメワラビ *T. hattorii* の変種で、葉柄、葉軸は淡緑色を呈し、表側にのみ微毛を密生させる。従って、裏面はつるんとしてやや光沢がある。母種のヨコグラヒメワラビは、葉柄、葉軸はねずみ色で、両面に微毛を密生するので、区別は要易である。

以前に採集した標本を整理していたところ、本種が出てきた。気にはなっていたが、単純にヨコグラヒメワラビとしていたものである。産地は南木曽町大妻籠で、よく記憶している。作成した標本も両者同数くらいあるので、母種にまざってかなりあったものと思われる。付近には、コバノイシカグマ、キヨシミヒメワラビ、キジノオシダ、ベニシダ、ハリガネワラビ、ウスヒメワラビ、ハクモウイノデ等があり、ヒノキ林の林床であった。おもしろいことに、すぐ隣の沢状地にはホソバトウゲシバ、ヤマソテツ、シノブカグマ、リョウメンシダ、ミヤマイタチシダといったシダも見られる。



写真8 ツクシヤワラシダ

ヨコグラヒメワラビの産地は、木曽では何ヶ所かあるので、そこらでもこのシダが発見できるものと思う。今まで、本県からは知られていなかった。

〔採集記録〕 木曽郡南木曽町大妻籠（大塚，1984，11，4 SHIN）。

17. イワカゲワラビ *Dryopteris laeta* (Kom.)

C. Chr

本種は日本では本州中部から北海道にかけて稀に分布するオシダ属のシダである。夏緑性で、一見、シラネワラビに似ているが、葉の感じはメシダ属を思わせる。根茎ははい、羽片の基部はやや狭く、羽片の中頃が一番広い。

本県では、1963年に奥原弘人が美ヶ原袴腰山で採集したのが最初である。その後、長谷村戸台でも見いだされ、最近、南佐久郡小海町から報告されている（花里，1987）。また、上田市独鈷山麓からも採集された。独鈷山麓産は、コナラ、クヌギ林の林床に小群落をつくり、葉が三角状卵形で幅広い。好石灰岩地性のシダであるが、石灰岩地でなくても、今後もっと産地が発見されるものと思われる。

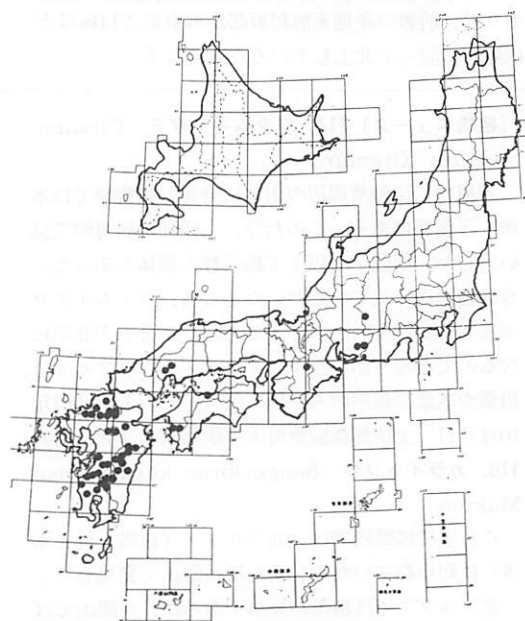


図2. ツクシヤワラシダの分布図

（日本のシダ植物図鑑3；584 p に木曽を追加）

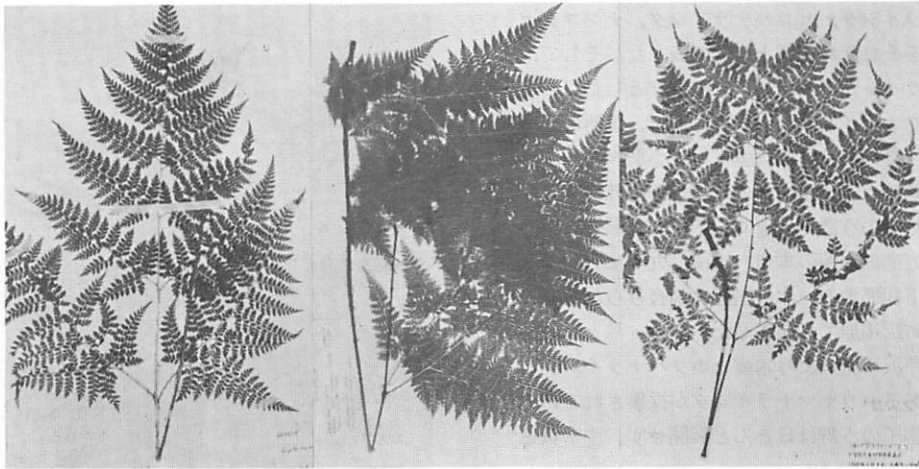


写真9 ホソバナライシダ

写真10 タカヤマナライシダ

写真11 ナンゴクナライシダ

〔採集記録〕 南佐久郡小海町馬流（池田登志男，1986，9，5 SHIN），上田市独鈷山麓（大塚，1987，8，16 SHIN）。

18. シモツケヌリトラノオ *Asplenium*

normale var. *boreale* Ohwi ex Kurata

本種はヌリトラノオ *A. normale* の変種で，羽片は短く，葉の先に無性芽を生じない。無性芽を生じるヌリトラノオとは，生態的にも異なっており，ヌリトラノオが湿潤な岩上あるいは地上に自生するのに対し，本種は，やや乾いた岩壁の割れ目などに自生する。

ヌリトラノオは，本県からは木曽南部と下伊那南部にごく稀に自生し，本種は，木曽南部から知られている。今回，非常に興味深い産地が発見された。池田登志男氏が佐久町で採集したものである。より内陸まで分布を広げているのが，この無性芽を生じない本種であることは，よく理解できる。佐久町周辺には，暖地性シダの種類が割合多いのも興味深い。イノモトソウ，オオバノイノモトソウ，コバノヒノキシダ，後述のナンゴクナライシダ等がある。

〔採集記録〕 南佐久郡佐久町宿岩（池田登志男，1986，5，31 SHIN）。

19. クモイワトラノオ *Asplenium* × *akaishiense* K. Otsuka

信大標本庫（SHIN）に，南相木村で採集された標本で，ヤマドリトラノオと同定されたものがあつた。よく調べてみたが，クモイワトラノオであった。クモノスシダを片親とする雑種の区別は難しいが，イワトラノオとの雑種である本種の採集例も近年多くなってきている。佐久から秩父にかけての地域には割合多く見られるのではないかとと思われる。

〔採集記録〕 南佐久郡南相木村奥三川1400～1500 m（池田登志男，1985，9，23 SHIN）。

20. ヤマクラマゴケ *Selaginella tamamontana* Serizawa

本種はクラマゴケに似るがそれより小さく，胞子のう穂はめだたず，特別な形をせず，胞子葉は2形ある。腹葉と背葉の辺には，突起状の細歯がある。

近年，芹沢俊介（1978）により記載された種類で，本州中部の山地（主に関東地方）に稀に分布する。長野県では，花里弘（1987）により報告されたが，詳しい記述はなされていない。群馬県境の山地には他からも見いだされる可能性がある。

〔採集記録〕 佐久市荒船山（花里弘，1985，8，12，SHIN），同地（池田登志男，1987，8，14 SHIN）。

（クラマゴケ類4種の検索表）

- A 胞子のうは地表や岩上をはう茎の先につく
 - B 胞子のうをつける部分の葉は特に異なった形をしていない……………ヤマクラマゴケ
 - B 胞子のうをつける部分の葉は栄養葉と異形で，小枝に頂生する……………クラマゴケ
- A 胞子のうは直立した枝につく
 - B 腹葉は長さ1.5～2mmで鈍頭，穂柄部の葉は著しく疎について小形…エゾヒメクラマゴケ
 - B 腹葉は長さ2～2.5mmで鋭頭，穂柄部の葉はやや疎について，匍茎の葉と同大……………タチクラマゴケ

21. ナンゴクナライシダ *Arachniodes miqueliana* (Maxim.) Ohwi

タカヤマナライシダ *A.* × *takayamensis*

Serizawa

芹沢俊介（1986）は，最近，ナライシダ類を再検

討し、ナライシダ、ヒロハナライシダ、ナンゴクナライシダをそれぞれ別種として発表した。そして、従来のナライシダをホソバナライシダとした。

ナンゴクナライシダは、葉は大形で、葉柄は赤褐色を帯び、葉柄のリン片は少ない。小羽片の先端はやや鋭尖頭で、二次小羽片の先端は通常鈍頭、裂片は広く、胞子のう群は大きく、胞子も大形である。

東北地方南部以西の本州、四国、九州に分布する。本県では下伊那地方、木曽南部に割合みられる。また、白田町広川原でも採集した。

なお、芹沢博士により本種とホソバナライシダとの雑種であるタカヤマナライシダが採集されている。本雑種の胞子のう群はほとんど裂開せず、やや黄色を帯びる。

[採集記録]

・ナンゴクナライシダ：南佐久郡白田町広川原（大塚，1986，7，28 SHIN）。

・タカヤマナライシダ：木曽郡三岳村田中800 m～840 m（芹沢俊介，1984，9，10 AICH），下伊那郡売木村茶臼山（芹沢，1985，9，1 AICH）。

22. オオエビラシダ *Gymnocarpium* × *bipinnatifidum* Miyamoto

本種はエビラシダとイワウサギシダの雑種と推定されるシダである。エビラシダの葉の切れ込みを深くした感じのシダで、2回羽状中裂となる。大鹿村豊口山麓をタイプロカリティーとして、最近記載された種類である（Miyamoto, 1988）。

時を同じくして、白田町をタイプロカリティーとして、エビラシダの葉の切れ込みの深い一型が、キレハエビラシダとして変種記載されている（伊藤洋，1988）。このものは、胞子や他の形態的特徴から、雑種ではないと考えられている。私の手元にある標本は胞子が不定形で、葉柄や葉軸に若干腺毛があり、イワウサギシダの形質を受けついでいると考えられ、オオエビラシダと同定された。また、山崎惇氏採集の標本は、葉がキレハエビラ型で、葉柄、葉軸に微少な腺毛を密生させており、これも、まさしく、オオエビラシダと考えられる。

[採集記録] 下伊那郡大鹿村豊口山麓塩川上流（鈴木和生，1985，8，2 TUAT-holotype）- J. J. B. 63: 19-21。南佐久郡白田町上小田切（草間博，1987），同地（山崎惇，1987，Sept，SHIN）。

23. イノウエシダ *Dryopteris dickinsii* × *D. crassirhizoma*

本種は芹沢博士の御教示により、長野県のフロラ

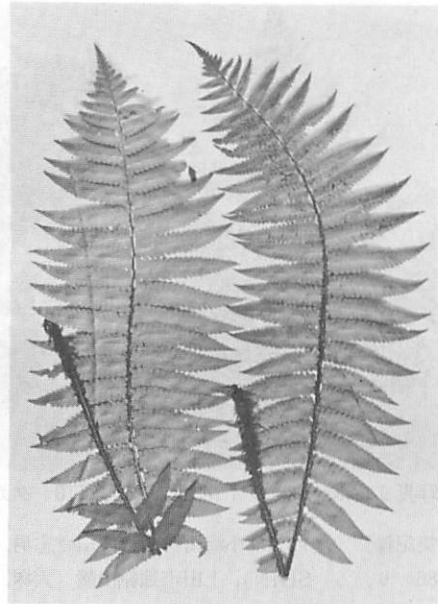


写真12 イノウエシダ

に加えられるものである。オオクジャクシダとオシダの雑種で、両者の中間的な形態をしており、オオクジャクシダからは、葉柄が短く、葉軸にかけて、明～黒褐色のリン片を密生させ、羽片の切れ込みが深いこと、オシダからは、葉の切れ込みが浅く、裂片の側脈がほとんど単条となることなどで区別できる。オオクジャクシダは木曽南部では割合多くあり、付近にオシダがある場所では、今後発見される可能性が高い。

御教示並びに標本閲覧の便宜を頂いた芹沢博士に感謝いたします。

[採集記録] 北安曇郡白馬村蔵平（芹沢俊介，1982，8，6 AICH）。

参 考 文 献

花里弘，1987，佐久東部山地の主なシダ植物，長野県植物研究会誌20；124

伊藤洋，1988，エビラシダの新変種，植物研究雑誌63；18

Miyamoto, F., 1988, *Gymnocarpium* × *bipinnatifidum*, a new hybrid fern from Japan, J. J. B. 63: 19-21

芹沢俊介，1978，本州産イワヒバ属の1新種，植物研究雑誌53；15-19

———，1986，日本産ナライシダ類の再検討 (3) 分類学的考察，植物研究雑誌61；48-56

(注) AICH ……愛知教育大学生物学教室標本庫